



主催：国際言語文化研究所／ジェンダー・スタディーズ研究会

2008年度国際言語文化研究所秋季企画 連続講座「国民国家と多文化社会」第19シリーズ

格差拡大社会とグローバリズム

第1回 シングルマザーの今を考える — 「格差社会」の流れの中で

日時：10月25日(土) 15:00～18:00 会場：末川記念会館2階第3会議室

報告：神原文子(神戸学院大学)「現代日本の子づれシングルと子どもたち」
大森順子(NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西)「ひとり親家庭で育つということ」
風間成美(NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西)「体験と事例から見える、シングルマザーの現状」
司会・ディスカッサント：岡野八代(立命館大学)

第2回 格差社会と文学1 — 桐野夏生を読む

日時：11月14日(金) 14:00～17:30 会場：明学館地階83教室

報告：種田和加子(藤女子大学)「格差社会と娼婦—桐野夏生『グロテスク』を検証する」
金子幸代(富山大学)「高齢者格差問題と桐野夏生の『魂燃え!』」
四方朱子(北星学園大学)「『メタボラ』—搾取をどう描くのか」
司会・ディスカッサント：中川成美(立命館大学)

第3回 格差社会に憲法はなにを言うことができるのか? — 「生存権」をめぐる対話

日時：11月21日(金) 15:00～18:00 会場：明学館地階83教室

報告：笹沼弘志(静岡大学)「生存権と『自由な社会』の構想」
遠藤美奈(西南学院大学)「生存と傍観—「私たち」と他者」
司会・ディスカッサント：岡野八代(立命館大学)

第4回 格差社会と文学2 — 弱きものとしての子供

日時：11月28日(金) 16:00～19:00 会場：明学館地階83教室

報告：菅聡子(お茶の水女子大学)「〈細民〉としての子ども—樋口一葉の小説を視座に」
林相現(九州大学大学院)「商品化される貧困—『にあんちゃん』と『キューポラのある街』を中心に」
鳥木圭太(立命館大学大学院)「プロレタリア文学と児童労働—佐多稲子『キャラメル工場から』の描いたもの」
司会・ディスカッサント：中川成美(立命館大学)

参加費・事前申込不要